



屋我地鳥獣保護区とは

屋我地島の周辺では干潮時には干潟が広がり、アジサシのほか、シギ・チドリ類をはじめとする多くの渡り鳥が訪れます。この地域は多くの鳥たちにとってエサ場や休息地、繁殖地などとして利用するとても大切な場所であるため、1976年に国指定鳥獣保護区に指定されました。

屋我地鳥獣保護区内では、地元在住の2人の鳥獣保護区管理員による鳥類の生息状況調査とパトロールを定期的に行っています。調査は平成13年から毎月行っており、これまでに約120種の鳥が確認されています。

また、夏季には屋我地島周辺の岩礁でベニアジサシとエリグロアジサシの繁殖調査を行っています。過去の調査記録によると、ベニアジサシについては1990年代までは数百の巣が確認されていましたが、近年の調査では数十巣程度しか確認されていません。

その他、ハマシギなどのシギ・チドリ類も減ってきており、それは全国的な干潟の消失が原因と考えられています。

屋我地でよく見られるシギ・チドリ類

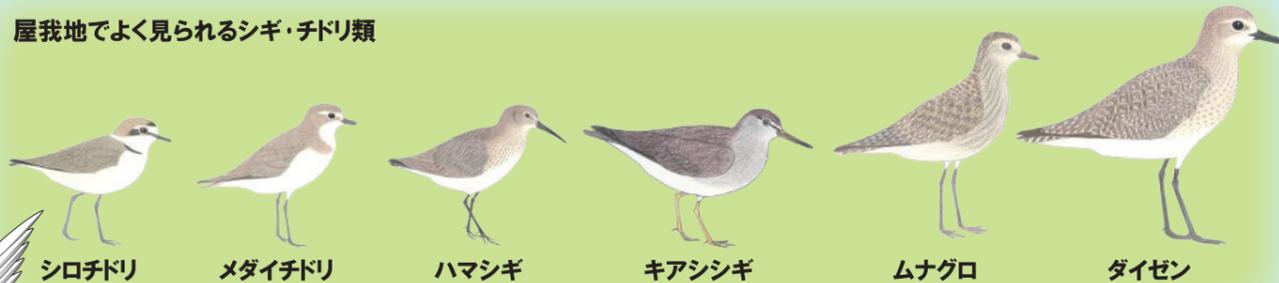


イラスト 渡久地 豊

海岸のクリーンアップ事業

屋我地島周辺では、ゴミの不法投棄や漂着ゴミが問題になっています。捨てられたゴミは景観を損ねるだけでなく、鳥がエサと間違えて食べてしまったり、捨てられた釣り糸が脚や翼にからみついて死んでしまうこともあります。

屋我地鳥獣保護区では、集落から離れた海岸や、処分にくい有償ゴミの清掃を中心として、海岸清掃(クリーンアップ事業)を行っています。この事業は、地元で環境保全に取り組んでいる“羽地内海の自然を守り育む会”に委託して行っています。平成18～20年度の事業では、通常的生活ゴミの他、冷蔵庫、テレビ、エアコン、洗濯機などの家電製品や、タイヤ、浮き、漁網などが多数回収されました。



清掃前(真喜屋の海岸)

清掃後



那覇自然環境事務所
〒900-0027 沖縄県那覇市山下町 5-21
沖縄通関社ビル 4F
TEL 098-858-5824 FAX 098-858-5825

やんばる自然保護官事務所
〒905-1413 沖縄県国頭郡国頭村比地 263-1
(やんばる野生生物保護センター内)
TEL 0980-50-1025 FAX 0980-50-1026

アジサシが繁殖にきています

屋我地生まれのアジサシがまたここに帰ってこられるようそっと見守ってください

写真 ベニアジサシ

写真 エリグロアジサシ

みなさんはアジサシという鳥を知っていますか？

この鳥たちは、夏になると、東南アジアやオーストラリアからはるばる海を渡り、屋我地島周辺の岩礁で産卵や子育てをします。しかし、この時期に人が近づくと親鳥は子育てをやめてしまいます。

アジサシが繁殖をする5月～9月の間は、魚釣りやマリンスポーツなど、屋我地島周辺の岩礁には近づかないようにお願いします。

写真のミーフガーという名の岩礁は、2004年まではベニアジサシの集団繁殖地として利用されていましたが、それ以降はほとんど確認されなくなっていました。

アジサシってどんな鳥？

アジサシはカモメの仲間の海鳥で、屋我地島周辺に毎年やってくるのは、ベニアジサシとエリグロアジサシです。これらのアジサシは夏に繁殖のために飛来する渡り鳥です。飛来した直後は近海の魚を食べて体力をつけ、産卵に適した岩礁を探して繁殖にそなえます。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されています。

エリグロアジサシ

くちばしと足が黒く、目の後ろから後頭部にかけて黒い帯があり、頭頂が白いのが特徴です。



ベニアジサシ

くちばしと足が赤く、黒いぼうしをかぶったような頭をしています。屋我地に渡ってきたばかりの頃はくちばしが黒く、繁殖期に入ると徐々に赤くなってきます。



足わの話

沖縄のアジサシがどこから渡ってくるのかは長い間不明でしたが、沖縄の調査で環境省の金属足わ(国名と番号が刻印されている)をつけたベニアジサシがオーストラリアで発見されたことにより、渡りのルートが判明しました。現在は金属足わの他に、オーストラリアでは白、日本では青の、写真のような足わもつけられています。



オーストラリアでつけた白い足わ

こんなところで繁殖します

アジサシは年に一度、5月に沖縄に飛来し、9月頃まで産卵や子育てをします。あまり人の姿が見えない海岸や無人島などの岩礁を選んで巣をつくります。大きな繁殖地では、数十～数千羽の集団で密集して巣をつくることもあります。

このような岩礁で繁殖します。特に黄色い点線で囲んだ地域の岩礁はこれまでに繁殖が確認されている場所です。



エリグロアジサシの親子



エリグロアジサシの卵



おねがい

近頃、こうした繁殖地のまわりで魚釣りやマリンスポーツ(特にジェットスキーやパラセーリング)が行われるようになり、アジサシたちが安心して産卵や子育てをすることができなくなっています。

アジサシが繁殖をする5月～9月の間に、人が岩礁に近づいたり上陸してしまうと、アジサシは繁殖をしたくても岩礁に下りることができません。また、営巣している岩礁に近づくと、親鳥は警戒して卵を放棄してしまうことがあります。この時期は岩礁(特に黄色い点線の中)には近づかないようにし、そっと見守ってください。

-  鳥獣保護区
-  特別保護地区